

水深測量 (港湾級)

問 1 次の文は、測深作業について述べたものである。正しいものには○を、間違っているものには×を付けなさい。

- 1 測深線の方向は、測深作業が能率的であるとともに、海底地形を把握できるように設定するものとする。
- 2 現行海図に記載されている浅所等については、その位置及び水深を確認するものとする。
- 3 低潮線は、測深の際にその位置、形状及び砂、泥等の種別を確認するものとする。
- 4 浅所の位置は、2 線以上の位置の線の交会によるか、又は 2 回以上の測定を行うものとする。
- 5 多素子音響測深機による水深は、直下測深記録から採用するものとする。ただし、斜角の振り角が 8 度以内の斜角測深記録は水深として採用することができる。

受験番号	
------	--

水深測量（港湾）

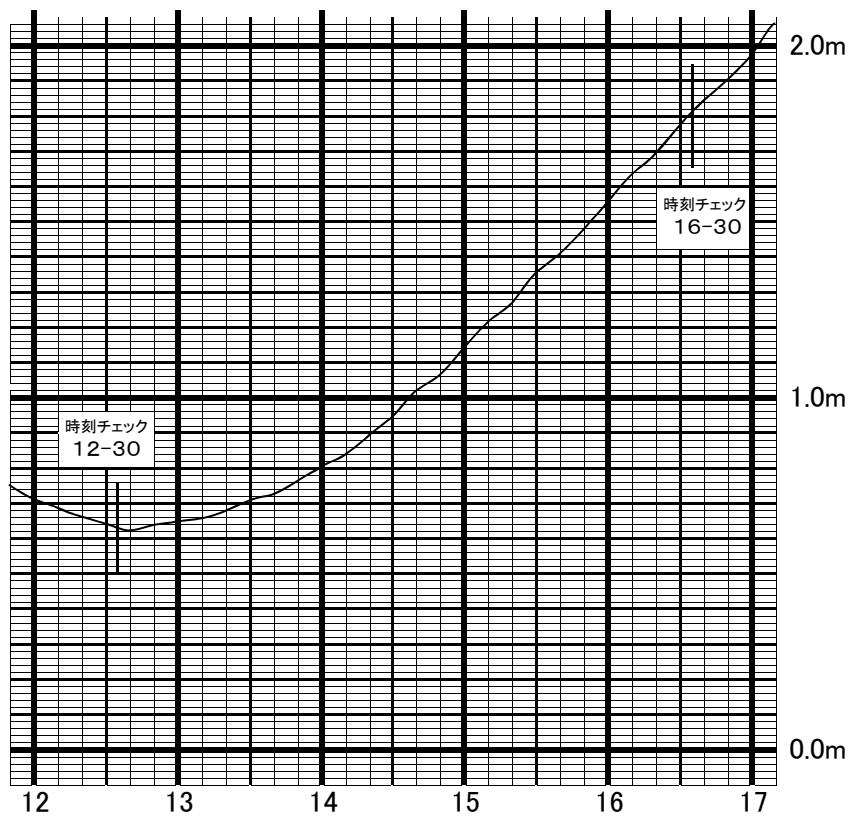
問2 次の文は、バーチェックについて述べたものである。正しいものには○を、間違っているものには×を付けなさい。

- 1 1日1回、原則として測深着手前に当日の測深海域又はその付近で、当日の測深予定の最大水深に近い深度まで実施する。
- 2 多素子音響測深機の場合は、直下測深の送受波器のうち主たるものについてバーチェックを実施する。そのほかについては、喫水の確認についてのみ行う。
- 3 送受波器の底面を基準として20メートルまでは2メートルごと、20メートル以上は5メートルごとの深度でバーを記録させ、バーの上げ下げについて行うほか送受波器の喫水を確認する。
- 4 バーの記録深度が、すべて±0.1メートル以内で合致するパーセント・スケールを選定する。
- 5 全深度について単一のパーセント・スケールで処理できない場合は、適当な区間に分けてそれぞれに合致するスケールを選定して使用する。

受験番号	
------	--

水深測量（港湾級）

問3 水深測量時に下図のような験潮曲線を得た。測深値に対する潮高改正をするため、15時00分から16時00分まで10分間隔で曲線記録を読み取って、下の験潮簿の空欄に記入しなさい。
 なお、当験潮所の観測基準面は0.00メートル、平均水面は1.60メートル、Z₀は1.10メートルである。記録紙変動監視の基準線は不動とする。

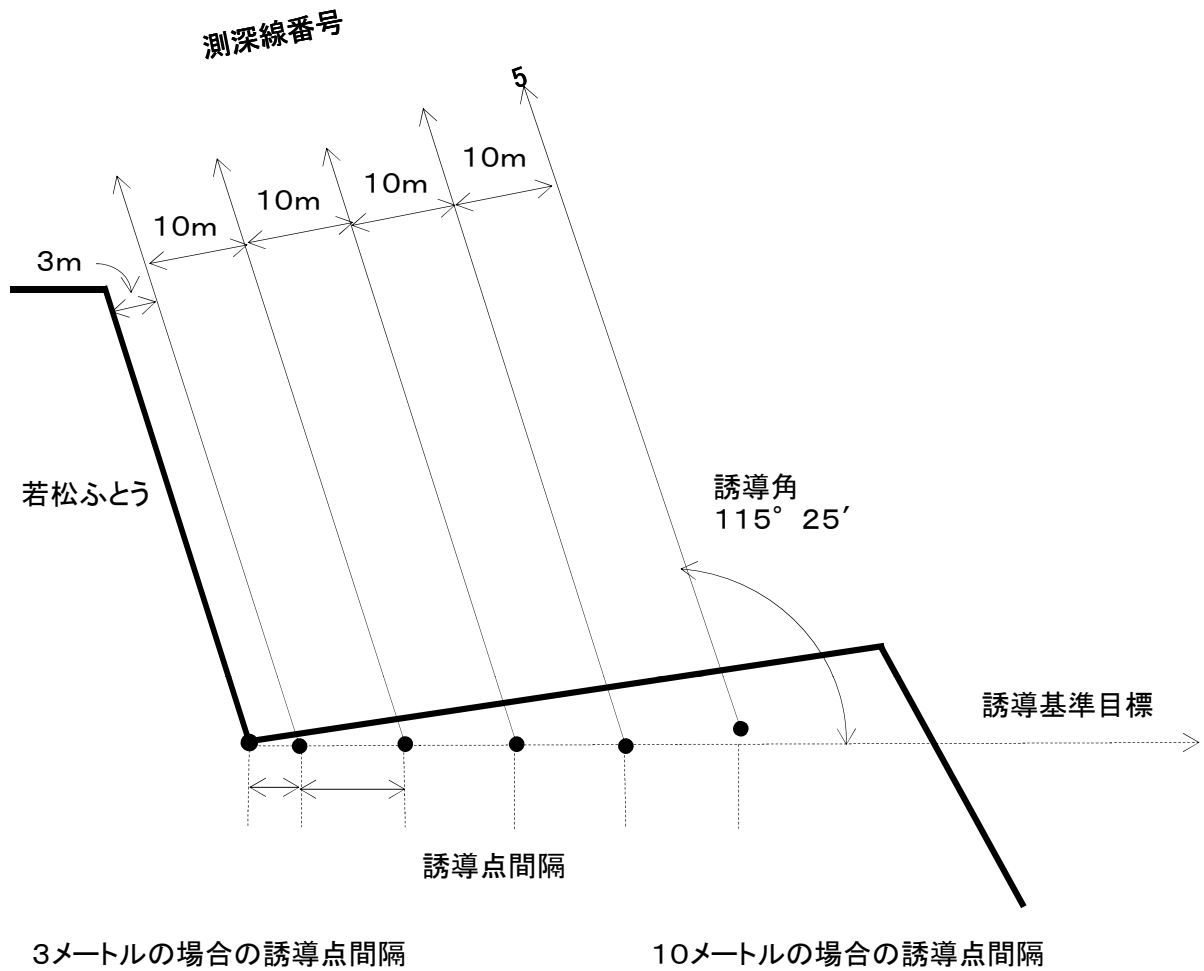


DL= (m)		読取値(m)	改正値(m)
時	分		
15	00		
15	10		
15	20		
15	30		
15	40		
15	50		
16	00		

受験番号

水深測量（港湾級）

問4 下図のような平行誘導の測深線を設定した。測深線間隔が3メートル及び10メートル
誘導点間隔をメートル以下2位まで算出なさい。



受験番号	
------	--